

愛妻家の「聖地」を「掘り」まくる旅マガジン

TSUM/TABI

holy times

妻との時間をつくる旅
[ツマタビホーリータイムズ]



特集♥歴史文化

4

2022 SUMMER

愛妻家の聖地

群馬県♥嬬恋村

その奥深さに驚き、そのナゾにときめく。
ようこそ、魅惑の歴史文化が眠る孀恋村へ。



愛妻家の聖地
群馬県♥孀恋村

「妻との時間をつくる旅」とは、
夫が妻に日頃の感謝や愛の気持ちを伝え、
妻が行う旅のスタイル。

妻との時間をつくる旅

[ツマタビ ホーリータイムズ]

TSUMATABI

holy times

CONTENTS

特集♥歴史文化

さあ、ツマタビホーリータイムズ第4号！
テーマは、「歴史文化」です。
孀恋村の旅といえば、避暑地のすがすがしい気候を満喫したり、
新鮮な高原野菜を食べ尽くしたり、
四季折々の自然風景に心を動かされたり、
ウインタースポーツやアウトドアに興じたり...。
もちろん、それだけでも十分満足してもらえる村ですが、
その満足度を何倍にも高めるただ一つの秘訣こそ、
歴史や文化に触れること。
あの山に、その畑に、...え、この道にも...!?
物言わぬ旅の風景に隠された意外な物語に迫り、
孀恋村のニューワールドへふたりで飛び込んでみましょう！

- 03 孀恋村の歩みの全貌を時間軸で紹介
孀恋タイムトラベル
- 05 村の歴史文化にまつわるオモシロ雑学
歴史文化トリビア
- 07 歩いて知る！見る！村の歴史文化
歴史文化散歩
- 09 村の歴史に眠る謎を解明
歴史ミステリーツアー
- 11 旅する夫婦に役立つ孀恋村の教訓
夫婦に伝えたい歴史的教訓
- 13 愛の物語をちょっぴりのぞき見
素晴らしきかな、愛妻ライフ
- 14 孀恋村のトレンド紹介
ススメ！オススメ孀恋！
- 日本愛妻家協会 事務局長代理 小菅隆太の
愛妻市場調査
- 15 ツマ子とタビ夫の妻旅劇場
孀恋昔話 孀恋かるた帖 孀恋人語
地域おこし協力隊がゆく！

表紙に描かれる二人は、故郷・孀恋村の歴史や文化、
ミステリーをこよなく愛し、ひそかに真実を追い続ける
下谷通さん(右)、土屋茂次さん(左)。本誌の「歴史文化
散歩」にも登場していますよ。



TSUMAGOI TIME TRAVEL

嬢恋タイムトラベル

約20万年前。嬢恋村の大地は巨大な湖の中がありました。
湖の周りにはマンモスが闊歩していたその時代から、
どんな歩みを経て「愛妻家の聖地」として繁栄する
村へ変貌したのか。さあ、時空を超えた旅へ出発だ!



復元された大笹関所門

1662年(寛文2年) 真田氏が大笹に 関所を建設

信州をおさめていた戦国武将・真田家初代
幸隆の支援を受け、関所が建設されました。
上州(群馬)と信州(長野)を結ぶ信州街道
の要所となった大笹は江戸時代、宿場町
として繁栄し、『東海道中膝栗毛』の著者・
十返舎一九も度々訪れ、興味津々! 関所沿
いの信州街道(大笹街道)は「油街道」とも
呼ばれ、夜を照らすタイムツの火の燃料
だった「菜種油」を江戸へ運ぶ馬や人が絶
えず行き交いました。そこにぎわいの跡は、
関所周辺の建物にいまも残されています。

江戸時代

鎌倉時代

飛鳥時代

1193年(建久4年) 源頼朝の巻狩

2022年NHK大河ドラマでも注目を
集める、鎌倉幕府初代将軍・源頼朝。
軍事演習や武士たちの娯楽としてイ
ノシやシカなどを捕らえる「巻狩
(まきがかり)」を行い、浅間山の麓にあ
る嬢恋の地を訪れました。そしてここ
をいたく気に入った頼朝は、鹿沢温
泉や千俣神社、四阿山などにも足を
のぼし、地名の由来にもなるなどの
数々の伝説を残しました。

弥生時代

縄文時代

650年(白雉1年)~ 温泉が栄え始める

嬢恋は、高原の村であり、温泉の村である! その礎を
築いたのが、650年とされる鹿沢温泉の開湯。湯治場
として、信州方面からの険しい峠を越えてでも浸かり
たい出で湯として人気を博しました。そして江戸時代
以降、標高1800メートルに位置し、万病に効くといわ
れる天空の療養泉・万座温泉が栄えます。その後も、
嬢恋バラギ温泉、鬼押温泉、嬢恋高原温泉、奥嬢恋温
泉、半出来温泉など、泉質のバラエティが豊富な温泉
が平成に至るまで村内アチコチに湧出。旅人や地元
民の心と体を癒し続けています。



昭和初期の万座温泉街の様子

3500年前頃 今井地区に 縄文人が定住

1993年、今井地区・東平遺
跡の発掘調査で、縄文土器
が大量に出土し、3500年
前に縄文人が定住してい
たことが判明。嬢恋の大地
に人が暮らし始めたのは、
それよりさらに遡り6000
年前だとか...。山深く、冬
の寒さが厳しい条件下で
も、人はそれを遥かに上回
るほどこの地の景色や空
気に惹かれ、愛していたの
ですね。

110年頃(景行天皇40年) ヤマトタケルノミコトが 妻に愛を叫ぶ

日本の歴史で、最もロマンチックな伝説です。古代最強の英雄・ヤマトタ
ケルノミコトは、東征という戦いの途上で最愛の妻・オトタチバナヒメを
亡くします。妻は、海神(わたつみ)の怒りを鎮めようと、自分の身代わり
となって荒れ狂う海に身を投じたのです。戦いを終えたヤマトタケルノ
ミコトは、四阿山(吾妻山:あずまやさん)の鳥居前に立ち寄ります。亡
き妻を想い、「あづまはや(=ああ、我が妻よ、恋しい)」と3度大声で泣き
叫んだといわれます。この愛妻伝説こそが、2000年の歴史を超え、「愛妻
家の聖地」と呼ばれる村の原点となりました。

9000年前頃 村の原型が 誕生



TSUMATABI holy times 03



明治22年頃の嬢恋村役場

1889年(明治22年) 愛妻の村 「嬢恋村」誕生

11ヶ村が合併し、「嬢恋」という村名が誕生しまし
た。村名の由来は、ヤマトタケルノミコトが妻に愛を
叫んだ伝説。世界で唯一無二の「妻に恋する」愛妻の
村として、その知名度を高めていき、現在では「愛妻
家の聖地」と呼ばれています。

1783年(天明3年) 浅間山の大噴火

村の行く末を劇的に変えた出来事こそ、
江戸時代、1783年(天明3年)に起きた浅
間山の大噴火です。最大の被害を受けた
鎌倉地区では犠牲者477名。噴煙は成層
圏を覆い、関東一帯に大飢饉、北半球に
冷害をもたらし、1789年から始まるフ
ランス革命を引き起こした一因とも言わ
れます。一方で、噴火で流れ出した溶岩や火山
灰によりデコボコだった高原の大地はな
だらかになり、キャベツなどの高原野菜
が育つ大地が形成されるなど、それ以降
の村に多大なる恩恵をもたらしました。
村の完全復興まで実に100年以上。災害
で築かれた村民のタフな精神は、いまも
受け継がれています。



美奈津洋夫氏蔵
浅間山噴火文庫ミュージアム画像提供



硫黄鉱山と労働者

1910年頃~1926年頃 (明治43年頃~大正15年頃) 馬の名産地に

群馬県はその名の通り、古来
「馬」の産地。明治の末からの馬
の増産ブームで、天下に名を轟か
せたのが嬢恋の馬(雌馬)でした。
農作業や、生活のあらゆる場面で
の荷物運搬にはなくてはならない
馬を、農民は家族同様に扱ったと
いいます。昭和30年代中頃から
農業の機械化がはじまると、馬は
村から姿を見せなくなりました。

1902年(明治35年) 浅間高原が、村所有の土地に

浅間山の裾野に広がる浅間高原は、明治後半まで
は国の直轄地でしたが、長年にわたる村民の奮闘の
甲斐あって、ついに村所有の土地に! ここから、別荘
や広大な高原野菜の畑の誕生へとつながっていき、
現在の嬢恋村の風景がカタチづくられます。



草軽電車が村内を走る様子

1919年~1962年(大正8年~昭和37年) 草軽電車の時代

草津~軽井沢間の55キロを3時間半かけてのんびり走った草軽電
車。嬢恋に開通すると、にわかには高原観光ブームを巻き起こし、観
光の村の歴史がスタート! 観光客を乗せるほかは、硫黄や木材など
の物資輸送で日本を支えました。また村内に運ばれた物資から水
力発電所が生まれ、村の近代化も一気に加速します。嬢恋では、
1926年(大正15年)に全線が開通すると、嬢恋駅、上州三原駅、東
三原駅、万座温泉口駅が生まれました。

1919年頃~1971年(大正8年頃~昭和46年) 硫黄鉱山の時代

温泉地で独特な香りを生むことでお馴染みの硫黄(いおう)。嬢
恋は、日本の一大硫黄産地でした。奈良時代に発見され、江戸
から火薬の原料とされるなどで本格的な採掘が始まりました
が、とくに大正以降、化学工業の原料として国内需要が増大。
長野県境に近い「小串」、草津白根山麓の「吾妻」、「石津」の3
鉱山が隆盛を極めます。鉱山労働に従事する移住者もどっと増
え、全盛期の昭和35年、村の人口は最高潮の16000人を記録。
嬢恋村、そして日本の産業発展・近代化に大貢献しました。



キャベツ畑で農作業をする風景(昭和49年)



1955年(昭和30年代)~ キャベツ栽培の本格化

浅間山の噴火によって生まれた黒々とした火山灰
土(黒ボク土)は、長らく作物が育たない大地とさ
れてきました。しかし、戦後の土地改良技術によ
り、極めて優れた土地として認識が一変。農業技
術の発達や国道の開通といった交通網の発達も
相まって、昭和30年代からキャベツ栽培が本格的
に始まります。いまや、嬢恋を代表する特産物と
なったキャベツは、出荷量が50年連続日本一! そ
してトウモロコシやじゃがいもなどの高原野菜や
お米まで、農業が村の繁栄を支える大きな柱に
なったのです。

1971年(昭和46年) 吾妻線の開通

吾妻川沿いをトコトコ走る群馬県
のローカル線・JR吾妻線。その開
通によって、東京からの電車での
アクセス時間が大幅に短縮! 貸切
電車「村民号」は、村内に団体旅行
ブームをもたらしたそう。村の玄関
口駅「万座・鹿沢口駅」の次は、関
東最西端の駅であり吾妻線終点
の「大前駅」です。

大正時代

昭和時代

明治時代

江戸時代

鎌倉時代

飛鳥時代

弥生時代

縄文時代

TSUMATABI holy times 04

HISTORY TRIVIA

歴史文化トリビア

あの偉人との関わりからロマンに満ちた村名まで、色とりどりの歴史・文化雑学をご紹介します。

TRIVIA
1



「嬢恋」の文字に

隠された秘密!?

ヤマトタケルノミコトの愛妻伝説に由来する村名「嬢恋」。正式には「嬢戀」ですが、それぞれの文字を紐解くと、「妻」を意味する「嬢」は、現代の解釈で「高貴な女性」に対して使われる言葉。「恋」は「戀」を簡略化したもので、「心ある言葉を通じて、赤い糸で結ばれる」という意味があります。「嬢恋」という名は、響きだけでなく、文字に込められた意味もステキなんですね。ちなみに、当初は「吾妻村」が村名の候補だったそうですよ。

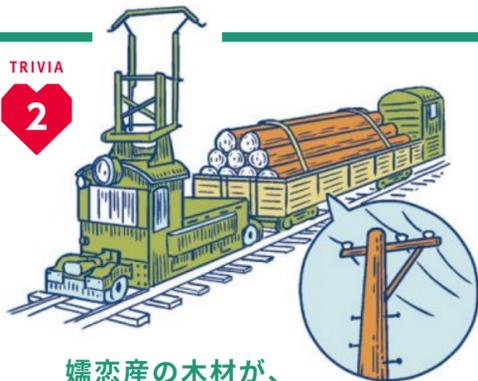
TRIVIA
7



鎌原復興への絆を深めた、奇策!?

江戸時代の天明の噴火で被災した鎌原村(現・鎌原地区)。そこで復興に向けて生まれた奇策が、「生き残った住民の誰もが同じ大きさの土地所有としたこと」。身分制度があり、家柄の差別も厳然と存在した当時。身分の高い者と低い者が同じ境遇になるという常識外れの策でしたが、ここから復興に向け、皆が一致団結する覚悟が生まれたのです。平等な土地区分の跡は、嬢恋郷土資料館付近の畑に残されていますよ。

TRIVIA
2



嬢恋産の木材が、日本を救った!?

大正時代の関東大震災、そして戦後の東京復興。日本の窮地で二度にわたり大活躍したのが、嬢恋産の木材です。寒冷地に育ったため、密度が高く、耐久性があった嬢恋の木は、「電柱」として非常に重宝されました。嬢恋は、陰ながら日本の未来を支えていた村なんですね。

TRIVIA
5



嬢恋は「馬鈴薯」発祥の地!?

「馬鈴薯(ばれいしょ)」といえばジャガイモのことですが、この「ばれいしょ」という呼び名は嬢恋村発祥だと言われます。嬢恋から信州に「ばれいしょ」を運ぶ際に、熊よけの鈴をつけた馬で峠を越えた様子から、「馬の鈴のいも」で「馬鈴薯」と言われるようになったそう。嬢恋産のじゃがいもがおいしいのも納得ですね! ちなみに、その馬鈴薯から「片栗粉」を日本で最初に作ったのも嬢恋村なんですよ。

TRIVIA
8

嬢恋村は、黒岩村!?

嬢恋村でダントツに多い名字といえば、「黒岩」さん。起源は戦国時代、1577~1582年頃に群馬県富岡市から移住してきた黒岩一族から広まったといわれます。村内のどの職場にも、学校にも、必ずといっていいほど存在する黒岩さん。だからなのか、嬢恋では下の名前で呼び合う光景がよく見られます。きっと旅の道中でも、一度は、いや、何度も黒岩さんをお見かけすることでしょう....

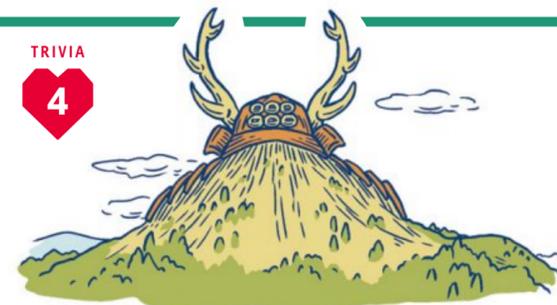
TRIVIA
3

弘法大師が生んだ、ナニコレ珍百景!?

鳴尾の熊野神社にそびえる巨大な杉。下枝が地面に向かって垂れ下がっています。「逆さ杉」と呼ばれるこの奇妙な杉は、いまから1000年以上前に、書の達人としても有名な弘法大師(空海)がここを訪れ、杖を立てたところ根が生え枝が逆さに育ったのだとか....間近で見ると、神秘さに圧倒されますよ!



TRIVIA
4



真田一族が生き残れた理由は、四阿山にあり!?

上州や信州を治めた戦国武将・真田一族。武田や上杉を大企業とすれば、中小企業格の真田がとった秘策こそ、情報戦略でした。関東、信州、上越、東北の結節点である四阿山で、各地に送った修験者たちから最新情報を一挙に集めたことで、長きにわたり戦乱の世を生き抜けたのです。まさに、「四阿山なくして真田なし」なんですね。

TRIVIA
6

噴火後の鎌原を救った、スーパーヒーロー!?

天明の噴火で、最大の被害を受けた鎌原村。その復興に最も尽力した一人が、干川小兵衛(ほしかわこべえ)です。農業の仲買人として財を成した彼は、「我が財産は、困った人を助けるためにある」と、被災民に食料や宿泊所などを与え続け、全財産を投じる献身ぶり。噴火直後は、60歳を超えていながらの一番に救済に向かう行動派でもありました。鎌原観音堂に生き残った93人に縁組を促し、家族の再生を図ったのも彼の名案。まさに窮地を救うヒーローのように活躍した小兵衛の名は、嬢恋史に永久に輝き続けるでしょう。



TRIVIA
9

源頼朝が狙った岩がある!?

四阿山の中腹に突如現れる大岩壁。高さ15m、全長200mで、屏風のような形をしています。その名は「的岩」。かつて源頼朝がここで狩りを楽しんでいたとき、「的」にするのにならうってつけだとし、弓を射った言い伝えから名付けられました。一目その岩を見れば、弓の名手であった頼朝の興奮も1000年の時を超えて蘇ってきそうです。



TRIVIA
10

嬢恋に伝わる獅子舞のナゾ!?



嬢恋で現在も続く郷土芸能・獅子舞。群馬県の多くが一人の演者で一匹を舞うのに対し、嬢恋では二人で一匹を舞うカタチ。これは、信州(長野)のスタイルなんです。そもそも、嬢恋のある浅間山の北の麓は、1701年に上州(群馬)と信州の境界が確定するまで信濃の国という認識でした。そのため、獅子舞以外にも、文化面・生活面で信州の影響をいまま色濃く受けているんですね。

HISTORY WALKING

歴史文化散歩

江戸や昭和の面影がたっぷり残る嬬恋村。
ゆったりのおんびり、タイムスリップ散歩を満喫しましょう。



1 大前駅前

JR吾妻線の終点駅・大前駅からスタート。駅から徒歩数分、「嬬恋村農村環境改善センター」の横から、ほんのり険しい山道へ。足元に咲く多彩な山野草の数々に心が和みます。



2 キャベツ畑&浅間山ビュースポット

山道を抜けると、夏〜秋頃、限りないキャベツ畑が広がります。畑の黒い土は、浅間山の噴火による火山灰が堆積したものです。「浅間山なくして、キャベツなし」目の前の絶景は、悠久の歴史でつながっています。

3 鎌原城址

武田信玄や真田氏の家臣となった鎌原氏。1397年に築城したのが鎌原城で、上州攻略の拠点となりました。現在は、城のあった跡地として残されています。



1 大前駅前

JR大前駅

START



4 鎌原観音堂

天明3(1783)年の噴火で、鎌原全土を埋め尽くした土石なだれから唯一残った建物。観音堂の石段をのぼり、生き残った93人から家族が生まれ、村は復興していきます。村民の命を守ったことから、厄除けのご利益があるパワースポットとしても有名。



5 嬬恋郷土資料館

天明3年の噴火の実態をわかりやすく、リアルに学べます。とくに、噴火のジオラマは必見!石段下で見つけた2人の女性の遺体の復顔模型のほか、発掘調査での出土品も展示されています。

救済の道「直路」を歩き 江戸の浅間山大噴火の 痕跡を辿るコース

1783年(天明3年)、浅間山の噴火で埋もれた鎌原村(現・鎌原地区)。鎌原の人々を救うべく、救援物資を運んだ道が「直路(すくじ)」です。かつて起きた噴火とは一体どんなものだったのか?頭と体で感じ、被災から村の完全復興までの道のりを辿ります。そして江戸の世から変わらない浅間山の雄姿、キャベツ畑や高原の植物など、豊かな自然にもとことん癒されます。人と自然が紡ぎ出す壮大な歴史物語をお楽しみあれ!

所要時間目安
4時間
(昼食含む)

GOAL

万座・鹿沢口駅へ

ガイド
土屋茂次さん



天明3年の浅間山大噴火発生当時の鎌原村



6 鎌原神社

鎌原観音堂から徒歩5分の場所に佇み、映画『男はつらいよ(第25作)』のロケ地にもなりました。写真右の「郷倉(ごうくら)」は飢饉や災害に備え、穀物を備蓄した倉庫で、天明の噴火を受け1788年に創建。寅さんもその中に入りました!

5 昭和の建築物群

昭和を生きた古民家や建物がズラリ立ち並びます。あの頃はよかった...いろんな昭和の思い出話を花を咲かせましょう。



井戸

旧郵便局

初代村長生家

6 浅間山&三原集落ビュースポット

村内の浅間山ビュースポットでも知る人ぞ知る美景こそ、三原集落越しの浅間山。昔話に出てくるような日本の原風景は、いつまでも見ていたくなるあたたかさがあります。



7 レトロなタバコ販売窓口



ちょっと大胆な色づかいが目を引きまします。いまは昔、タバコをすべて人が販売していた名残。当時の状態そのままが残っているのがなんと貴重です。

8 湧水「清浄法水」



ただの湧水ではありません。あの弘法大師が杖を突いたところ、湧出。源頼朝が巻狩の折、あまりのおいしさに感激し、愛飲した伝説も...。旅の疲れもたちまち吹き飛ばす、不思議成分入りです。



9 三原阿弥陀堂

嬬恋村出身の芥川賞作家・南木佳士。2002年に映画化された小説『阿弥陀堂だより』は、病氣になった夫婦が山里の阿弥陀堂の老婆と出会い、癒されていく物語です。その阿弥陀堂のモデルとなった観音堂です。



10 中居屋重兵衛の生家

生糸貿易のパイオニアであり、横浜開港の祖といわれる偉人・中居屋重兵衛。上州中居村(現・三原地区)に生まれ、20歳で江戸に出るまでここで育ちました。

GOAL

万座・鹿沢口駅へ



11 割烹 中居屋

中居屋重兵衛の子孫が営むそばの名店。オススメは、夏季限定の「キャベツそば」。毎朝ご主人が野山で採ってくる旬の山菜天ぷらも絶品です。

草軽電車の廃線跡を歩き 昭和レトロの 遺産に触れるコース

所要時間目安
2.5時間
(昼食含む)

1915年(大正4年)から1962年(昭和37年)までを駆け抜け、多くの人々に愛された「草軽電車」。そのとても小さな電車は、草津から嬬恋、そして軽井沢までの高原の道を走りました。草軽電車の駅「上州三原駅」があり、大いなるにぎわいを見せた三原地区を巡り、古き良き昭和の名残の数々に出会えます。とくに、中高年のご夫婦にオススメ!さあ、ノスタルジック満載な歴史散歩をはじめましょう。

ガイド
下谷通さん



2 上州三原駅跡

昭和時代、「上州三原駅」周辺は、旅館や映画館・劇場などの娯楽施設があり大変栄え、三原は村の中心地になりました。上州三原駅の跡は、群馬銀行嬬恋支店の裏側。説明板もあります。



1 万座・鹿沢口駅前の崖

JR万座・鹿沢口駅の横にそびえる、恐竜時代ほどの太古な歴史を感じる断崖。これは14000年前の浅間山の噴火で堆積した地層です。息を呑む迫力。自然のアートに唸ります!

ガイドさんが、さらに詳しい歴史や見どころをご案内!
下記までお問い合わせください
嬬恋村観光案内所 TEL:0279-97-3721

DEEP TSUMAGOI TOUR

歴史ミステリーツアー

村の歴史や自然の神秘を追う案内人に導かれ、よりディープな燐恋を楽しんでみませんか。



ひと夏の奇跡 高原に舞う幻蝶

燐恋に来たらずび探してみたい蝶々、それが高山蝶です。もともとシベリアなどの寒冷地に住んでいたこの蝶は、大陸と日本が地続きだった約1万年前にやってきたらしく、「氷河期の落とし子」なんて呼ばれているそう。日本にいる全13種の中で、燐恋にいるのは3種。しかし悠久の時をたくましく生き抜いてきたこの3種も、今では絶滅が危惧されているというから悲しいものです。

以前、貴重な高山蝶を守るため、「燐恋村高山蝶を守る会」の一員としてパトロール活動をしていた私。ベニヒカゲは比較の見つけやすいものの、ミヤマシロチョウとミヤマモンキチョウは、監視員の私でもひと夏に1、2頭出会えるかどうか。ほとんど幻です!

でもだからこそ、その出会いは感動もの。特にミヤマシロチョウは羽に黒いすが彩られ、ふわふわと木の葉が舞うように飛ぶことから、その優雅さに一目でみとれること間違いありませんよ。普通の蝶とは異なり、ひととき美しい姿かたちをしている高山蝶。山登りをする際は、ご夫婦で蝶との出会いも楽しんでみてくださいね。

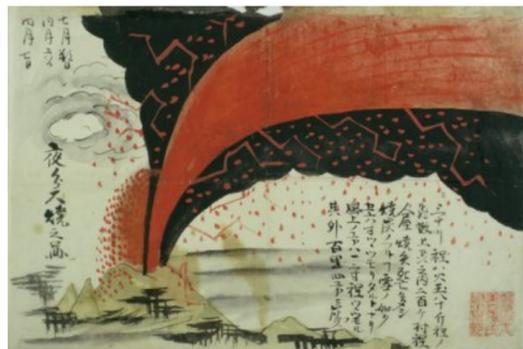
※紹介した3種の蝶は、群馬県では採集が禁止されています。



ミヤマモンキチョウ
浅間山、四阿山、白根山に生息(オスは、黄色のはね。メスは、白色のはね)

ベニヒカゲ
湯ノ丸山、角間山、標高1500m以上に生息

ミヤマシロチョウ
湯ノ丸山、浅間山周辺、標高1400~2000mに生息



天明の大噴火を描いた絵画 所蔵:美斉洋氏 画像提供:浅間編文ミュージアム



一生を懸けても解けない? 浅間山の謎

つい60年前まで、浅間山は今と全くと言っていいほど違う姿を見せていたことをご存知でしょうか? 白い煙が上がるおだやかな山ではなく、黒い煙が常にモクモクと立ち上がり、小規模な噴火が日常茶飯事。村民も、そんなやんちゃな浅間山を受け入れ、日常をともに暮らしていました。

浅間山は、この2000年で3度の噴火を起こしています。その一つ、1783年(天明3年)の噴火は実に謎多きものでした。例えば、中腹でも原因不明の爆発が起きたこと。その音は遠く京都や中国地方まで聞こえたと言います。さらに土石なだれが想定外の方向に流れ、鎌原村(現・鎌原地区)に大被害が。3ヶ月続いた噴火がピークに達した8月4日からの24時間で、こうした謎がいくつも起きたのです。浅間山の正体を一言で言うならば、複雑怪奇。科学で解明できないことがまだまだ隠されていて、世界に1500ある活火山の中でも類を見ない山なんです。

私は、小学生から火山に興味を持ち始め、大学から浅間山ひとすじで研究を続けてきました。人間社会がちっぽけに思えるくらい、奥が深すぎる浅間山。その謎解きはやっぱり最高におもしろい。生涯めげずに真実を追いつづけます! ちなみに、山容が美しいことでも有名な浅間山。六里ヶ原休憩所から見える景色が格別ですよ。

♥浅間 六里ヶ原休憩所 [住所]群馬県吾妻郡燐恋村鎌原



1979年、鎌原観音堂での発掘調査の様子



中居屋重兵衛肖像画



日本史に埋もれた偉人・中居屋重兵衛

新一万円の顔・渋沢栄一が才能を絶賛したという燐恋出身の偉人...知らないでしょうか??その名も中居屋重兵衛。一流の火薬研究者であり、稀代の大商人としてマルチに功績を残した人物です。商人としての転機は、江戸・日本橋に店を構えた30歳のとき。商業の中心地での経験は大きな自信となり、40歳で開港場もない横浜に進出します。長い鎖国から明けた日本で、重兵衛は海外への生糸の売り込みにいち早く成功するのです。

生糸はシルク服の原料。前橋をはじめ、群馬産生糸の高品質ぶりに、世界中が驚いたと言います。そして生糸は今の自動車のように、たちまち日本を代表する輸出品になったというからものすごい話ですよ! 巨万の富を築いた重兵衛は、日本一の貿易都市・横浜の礎をもつくりあげました。

しかし横浜にいたのはわずか2年。忽然と姿を消し、42歳の若さで謎の最期を迎えます。その後、生家は火事に遭い、彼が残した多くの文書が焼失。そのため昭和初め頃まで、彼の存在を知るものは日本はおろか群馬にもほとんどいませんでした。そこで私の祖父の代から関連資料の調査・発掘が始動。私も7代目の子孫として思いを受け継ぎ、彼をメジャーな存在へと押し上げるべく活動しています。各地で講演を行うほか、私が営む割烹には特設展示コーナーまで作ってしまいました! お店を訪れた際には、ぜひご覧になってください。

♥割烹 中居屋 [住所]群馬県吾妻郡燐恋村三原388



開港時の横浜を描いた錦絵



燐恋村文化財調査委員
滝沢潤二さん

割烹中居屋ご主人
黒岩幸一さん

日本大学
文学部教授[火山学]
安井真也さん

燐恋村文化財
調査委員長
鎌原郷司さん

燐恋郷土資料館
ボランティアガイド会
黒岩秀二さん



空前のイオウラッシュ に沸いた鉱山

大正の初め頃から昭和にかけて、燐恋には硫黄鉱山で栄えていた時代がありました。正直今では考えられないけど、当時はキャベツより硫黄で有名な村だったんです! 化学製品の原料として欠かさない硫黄は、戦後に急激なニーズが高まり、村北部の3鉱山が最盛期を迎えました。

中でも小串鉱山は一時、日本第2位の硫黄生産地になったほど。価格が高騰した原石は“黄色いダイヤ”と呼ばれ、まさにゴールドラッシュさながら。戦後日本の経済復興にも大きく貢献したんです。

子どもの頃、親戚のおじさんに鉱山に連れて行ってもらいましたが、すごい活気でした。そこには大きな共同浴場や映画館といった娯楽施設があり、商店は賑わい、着るものや食べものもはさしめ最先端のトレンド発信地。子どもには刺激が強すぎました...!

でも栄えるものはいつか衰えゆくのが世の定め。1971年(昭和46年)、石油精製の過程で回収された硫黄に圧迫され、燐恋の鉱山はすべて閉山しました。なぜこんなにも早く...と本当にザンネン。今は小串鉱山のみ、変電所や精錬所の跡を目にできます。国有地のため、探検したい方はジオパークのガイドさんを頼んでみてください。鉱夫たちの夢のあとが、そこには大きく広がっています。

♥小串鉱山 [住所]群馬県吾妻郡燐恋村干保 [ガイド予約]0279-97-3721(燐恋村観光案内所)



発掘された二人の遺骨 観音堂の愛と悲劇

ここ400年で国内最大級とも言われる、1783年(天明3年)の浅間山の噴火。土石なだれが発生し、山の麓の鎌原村は一瞬にして埋没しました。村民の8割が命を落とす中、高台にあった鎌原観音堂へ避難した93人だけが奇跡的に助かり、村を再興していきました。私はそこで生き残った93人の子孫の一人です。

それから200年後の1979年(昭和54年)、災害の実態を探るべく、観音堂で本格的な発掘調査が始まりました。地面の下には果たして何が...? 埋没した謎を掘り出します。すると、現在15段ある観音堂の入り口の石段が、全部で50段あったことが判明。噴火で溶岩や土石が覆い尽くした大地は、高さ6mにおよんでいたのです。

さらに驚くべきは、石段の最下部に、二人の遺骨を発見。若い女性が老いた女性をおんぶする姿で重なっていました。復元作業を行った写真を見ると、二人の顔つきは似ています。親子か姉妹か...? 想像の域は出ません。一人なら助かっただろうに、見捨てなかったのは深い愛でしょうか。あと少しのところで...なんとも悲しいことですよ。観音堂には、まだまだ深い謎が横たわっており、さらなる発掘調査も進んでいます。村を襲った悲劇とその復興の歴史にどうぞ触れてみてください。

♥鎌原観音堂 [住所]群馬県吾妻郡燐恋村鎌原492



硫黄をトロッコに積み込む鉱夫



硫黄を運ぶロープウェイ

LESSON OF TSUMAGOI

夫婦に伝えたい歴史的教訓

愛妻家の聖地・孀恋村の歴史に残された、
旅する夫婦がもっと円満になる教訓を伝授します。



旅の道中、ひょっとしたらケンカが勃発することもあるかもしれませんが、そんな時に思い出してほしいのが、1783年、天明の大噴火後の孀恋です。

日本の自然災害史上最大級の被害にもかかわらず、その復興の早さが驚異的で、被災からわずか半年後に家が立ち並びました。千川小兵衛といった優れたリーダーの存在や、近隣集落の大笹や干保からの支援も強力な後押しとなりましたが、何より、復興を行政（江戸幕府）や個人任せにせず、地域一丸となって助け合い、推し進めようとする意識・姿勢こそが原動力となりました。

夫婦も、険悪な仲に陥った場合、その後の向き合い方がその肝心かなめ。関係復興の早さは、お互いが謙虚になる早さに比例するという説も「まずは自分から謝る」をモットーにしたいですね。

復興の早さ

教訓

夫婦も仲直りのスピードが命

人生「あれかこれか」のどちらを選ぶかで迷い、悩むことの連続。限られた旅の時間も、その宿に泊まるか、こちらのスポットにいくか...迷いは尽きないことではない。

1783年の浅間山の噴火で壊滅状態となった鎌原では、このまま別の集落にいき鎌原を捨て去るかここに残り鎌原をゼロから立て直すかという岐路に立たされました。その究極の2択で村民が選んだのは、鎌原を再興するというイバラの道。人口が急増した当時の日本でその集落も人を受け入れる余裕がないという理由もありましたが、ここで生きることは家族や仲間が埋まった大地の上に住むということ。生き残り、運命をともにした93人は並々ならぬ覚悟を決め、身や家柄の大きな壁を越えて家族をつくり、命をつなぎ、ついに復興を果たしていったのです。

旅も夫婦の人生も、選んだ道が正しいか否かより、どんな運命も受け入れ、一緒に乗り越えていくと心に決められるかどうか次第。その先に、まだ見たことのない素晴らしい景色もきっと待っているのです。

運命・覚悟



教訓

ともに運命を受け入れ、前向きに

健康



旅の間はもちろん、いつでもふたりの幸せを支える土台は、健康なカラダとココロです。浅間山や四阿山など、2000m級の山々に囲まれ、標高1000mの高原が広がる孀恋村。なんといつてもそこは大自然の宝庫。澄み切ったうまい空気、水質のいい山の湧水、コマクサやレンゲツツジの高山植物が咲き乱れ、野鳥がさえずり、高山蝶が舞い、カモンカなどの動物がゆったり歩く。おおらかで、四季鮮やかな風景に癒されます。

そして、1300年以上前から湯治場として栄えた鹿沢温泉や、世界一の良泉質ともいわれる硫黄泉の万座温泉をはじめカラダによく効き、お肌もスベスベになる温泉が湧出。昭和に入ると、日本一美しいといわれた村が新しい産業をつくらんと、村民決死の努力でキャベツなどの高原野菜を売らせ、現在はスキーやゴルフなどスポーツ・レジャーも充実。

まさに、見て、浸かって、食べて、体を動かしてよし！孀恋の歴史とは、旅人や地元民の健康増進に貢献する村として進化してきた歴史なのです。ぜひ、この旅で心身ともにトクトク健康回復を！

教訓

愛する気持ちも健康あってこそ



思いやりある行動は、さりげなく遂行されるのがカッコイイもの。まちを歩く時、いつの間にか車道側にいたり、相手が寝ている時に布団が乱れていたらそっと整えてあげたり...

孀恋には、古くから「おてんま」という地域のための奉仕活動（ボランティア）が行われ、道路の修復・清掃、倒木の片付け、用水路の修復、草刈りなどの作業を行っています。行政の依頼ではなく、村民が自主的に始め、慣習化したというのだから驚きです。村民が村民のためを思って行動するのは、強い村愛ゆえでしょうが、それこそ、思いやりという良いおこないが回り回って自分に返ってくるという因果応報な考えからでしょうか...

夫婦とは、社会の最小単位。社会が思いやりの連鎖で成立、維持されているように、持続可能な思いやりこそ夫婦関係温暖化の力になる。そんなことを改めて気づかせてください。

奉仕・思いやりの心

教訓

思いやりに見返りは求めない

ふたりの旅は、家に着いたら終わりではありません。記憶が新鮮なうちに、互いに撮った写真や動画を一緒に眺め、思い出をしっかりと胸に刻む復習タイムが欠かせないでしょう。

鎌原観音堂にあるおこもり室には、鎌原に生き残った93人の子孫や鎌原地区の住民が1年中、ほぼ毎日交代でお堂に詰め、天明の噴火災害の記憶や教訓を参拝者に語り継いでいます。その歴史は約240年。災害の記憶を風化させないため、そして、いま自分が生きているのは先人たちの努力のおかげだとう切実な感謝の思いがあるからだといいます。それにもいまままで途絶えさせることなく次代に伝承し続けてきたのは、世界的にも超異例な現象であり、トクドメな偉業です。

夫婦も、出会った頃のことや歩んできた道のりを時々、思いで振り返ることで、いまの関係がもっとよく見えたり、感謝の念がふと湧き上がったり、生きることのありがたさに気づけたり、恋した頃のラブパワーも復活する...かもしれません。これからもつく夫婦円満な人生の旅を、どうぞ末長く。

維持の力



教訓

夫婦こそ、初心忘るべからず

AISAI LIFE RECOMMEND

素晴らしきかな、愛妻ライフ

愛妻家の聖地・孀恋村で暮らす二人の物語。
いつまでも色褪せることのない愛の1ページを
覗いてみましょう。



工藤夫妻
工藤聡さん
工藤恵美子さん

夫婦の第二幕、
人生も愛も深まって。

孀恋の夏に惚れた、ふたり。

浅間高原にある別荘地・プリンスランドに私たちの家があります。もともと私たちは結婚後、千葉から孀恋に週末だけ通うような生活をしていました。夫も私も避暑地としての夏の孀恋が大好き。リタイアを機に、ここでセカンドライフを送ろうと本格移住を決めました。

孀恋で過ごす夏は格別で、私たちにはお気に入りの一日があります。まず午前中、庭仕事を体を動かしたら、三原の三原屋食堂へ。名物のソースカツ丼でスタミナをチャージした後、見渡す限り広がるキャベツ畑の中をドライブ！まるでスイスの高原のような美しさなんです。そしてつじの湯に着いたら、露天風呂やサウナでさっぱり汗を流します。夜は地元の直売所で甘みの強い419キャベツや、香りの良い鎌原きゅうりなどの高原野菜、とれたてのヤマメやイワナを買い込み夕食。都会では味わえない自然や美食に癒される一日に、夫婦二人でたまらない幸せを感じています。

高原野菜のおいしい食べ方は、農家の人たちから教えてもらいました。村のみなさんはとにかくやさしいんです。鎌原観音堂のおばあさんには草履を編んでもらったりもして、あたたかいお付き合いにほっこり。千葉で暮らしていたときは、まちの人との付き合いなんてほぼありませんでしたから。人を通じて知識や好奇心が広がり、そこからまた新たな出会いが広がっていく。たくさんの人たちと触れ合うにつれて、どんどんこの村への愛着が湧いてきますね。

はじめての冬、驚きの連続。

2021年、孀恋村で迎える初めての冬。実を言うと私は、孀恋の冬を怖れていました。とても冷えると聞いていたからです。実際、その年も大雪で気温が-20度まで下がり、水道管が凍ったりと洗礼を受けましたが、村の人たちが言うには今まで一番くらいに寒かったとのこと。だから今後はもう怖いものなしです(笑)。

夫とは異なり、私は初めから冬を楽しむ気満々でした。まず感動したのは星空の美しさ。また、雪が積もった日にはあちこちに樹氷ができ、幻想的な白銀世界にうっとり。これまで国内外いろいろな場所を旅してきた中でも、絵本の世界に入り込んでしまったようなこの絶景には驚きましたね。それとせつかくスキー場があるので、滑らなきゃ！と思っていたので、夫を誘って二人で「パルコール孀恋」へ。雪質が抜群で、お互い数十年ぶりのスキーでしたが気持ち良く滑ることができました。今再び、夫婦二人で夢中になれる趣味になりましたよ。

夏だけでなく冬もとても素晴らしいものだ、と改めて孀恋の魅力の深さに気づかされました。村の人たちが「冬の孀恋は綺麗ですよ」と言う意味がようやく分かりましたね。

ここに来てから新しいことにチャレンジする機会が増え、かけがえのない思い出が一つずつ増えていきます。旅行添乗員だった仕事経験を活かし、今後は何かしら村に貢献したいと考えています。夫婦の夢も大きくなる孀恋で、これからずっとワクワクしながら過ごしていきたいですね。



もみじ色づく秋。お気に入りの自宅の庭で。



愛車のトライクで妻をエスコート。

PICK UP!

ススメ! オススメ孀恋!

今、孀恋村で最も旬な「モノ・コト・場所」を
ピックアップしてご紹介!



72season's 株式会社 代表取締役
南雲昌高さん

セブンスター・シーズズ
72season's
(ポルトガルワイン専門店)

ポルトガルワインと一人の男の
運命的なリアージュ。

夫婦に相性が欠かせないように、「ワイン」と「食」も相性が命である。そんな信条でワインショップを営むのが、72season'sのオーナー・南雲さんだ。酒類取り扱い数日本一の酒屋「やまや」の新宿店で18年間の勤務を経験。そこで店頭にある6000種のワイン情報を徹底的に頭に叩き込んでいった。ワインにまず魅了されたのが、香りの奥深さだ。彼女の香水から祖母の家の縁側で嗅いだ匂いまで、人生で嗅いださまざまな香りがふと蘇り、それが愛おしかった。ワインを話題にすれば、年齢や職業、住んでいる地域などの壁を超え、多くの人と瞬時に打ち解けられるのも楽しかった。いつしか南雲さんは輸入ワインのお店を開く思いをたぎらせる…。味が好みだったヨーロッパワインの中から各国のワインの特徴や歴史をくまなく調べ、現地のワイナリーに何度も足を運んだ。ついに「これだ!」と辿り着いたのが日本人にとってマイナーな「ポルトガルワイン」だった。調べると、ポルトガル

と日本はコメ食大国であり魚食大国。さらに気候風土など共通点が多い。「日本の食文化に合う。日本人にハマる」と確信した。約500年前、海外から初めて日本に持ち込まれたワインもポルトガル産。その出会いに運命すら感じた。そして2019年、南雲さんは孀恋村にポルトガルワイン専門店をオープン。孀恋の牧歌的な風景は、ポルトガルワインの名産地・ドウロ地方の風景にそっくりだった。

日本のどんな「食」にも合う、最強のワイン。

72season'sの商品は、250種以上のポルトガルワインから厳選した30種。和食のほか、洋食、中華など、日本で食されるどんな料理にも組み合わせられる自慢のラインナップだ。店を訪れたら、ぜひ南雲さんにオススメを聞いてほしい。食べる料理や食材に加え、体調や気分も総合的に考慮しながら、あなたにベストマッチする1本を教えてください。南雲さんの仕事はワインを売るだけにとどまらない。ソムリエとしてワインの楽しみ方をも伝授している。南雲さんは言う。「日本人は、ワインを神格化

しすぎだと思います。がんばらない料理に合わせてもいいし、グラスじゃなくマグカップで飲んでいい。ラフに味わうのがワイン本来の嗜み方で、世界的にも主流。ツウの合わせ方は、お刺身の醤油に少し垂らすことです。購入したワインは店内で飲める。お店ではワインに合うおつまみも用意しており、とくに焼き立てピザは絶品だ。商品はオンラインでも販売中。ワインビギナーから愛好家まで、旅を終えた日常にも、旅のさなかにも、夫婦水入らずの時間に必ずや華を添えてくれるだろう。



72season's
【住所】群馬県吾妻郡孀恋村鎌原1043
【電話】0279-97-2234

AISAI COLUMN

なかなか収束しない新型コロナウイルス、大国内による戦争、忘れた頃にやってくる大地震に、気候変動・異常気象に端を発した風水害など。近年「まだか!」「またか!」と思わずため息をついてしまう様々な出来事と向き合ってきた。ここ孀恋村も、遡ること240年近く前の1783年(天明3年)の浅間山の大噴火によって甚大な被害を受けた歴史を持つ。

噴火の最盛期には、噴煙は成層圏まで上昇。偏西風に流されたことで、風下では軽石や火山灰が激しく降り、山腹では火砕流や溶岩が流下。浅間山北麓に位置した上野国吾妻郡鎌原村(現群馬県吾妻郡孀恋村)のほぼ全域を、村人に逃げる際を与えることなく呑み込んだという。その凄惨な爪痕は、現在も観光地として知られる「鬼押出し」して、今を生きる私たちに、たくさんのお話をそのままの形で残してくれている。

村の人口5700人中、死者477人、生存者93人。生存率16.3%という数字からしても、当時のこの地域の絶望感は想像に難くない。

ここまで書くと、大規模自然災害にあった可哀想な地域、と思うかもしれないが、私がこのコラムで触れたいのは、ここからの地域の復興の仕方だ。



日本愛妻家協会 事務局長代理 小菅隆太
愛妻市場調査

JAO
Japan Anisaki Organization
日本愛妻家協会

家柄や素性を重んじ、相手に応じて挨拶を交える、有力者しか座敷に上げないなど、強いこだわりがあった同地域にして、災害後復興のため古い慣習から皆で協力して脱却を図り、夫を亡くした妻と妻を亡くした夫を再婚させ、子を亡くした老人に親を亡くした子を養子としてして再構築したという驚きの復興をやつてのけたのだ。前例のない有事とはいえず、この方法を実装したことは、様々な文献からも相当なウルトラCだったことが伺い知れる。こうした歴史を持つ村は、行政と住民の距離が不思議と、そして自然と近く、共創の土壌が育まれてる雰囲気を感じることができない。

私たちは難問あふれる現代に生きていくわけだが、ありがたいことに大切な人と一緒に暮らす自由は奪われていない。

その自由が奪われた歴史を持つ村で、生存者たちがどんな思いで地域の再生を果たしていったのか。今こそ現地に足を運んで村民の話に耳を傾けてほしい。

きっと今をより良く生きるヒントがその歴史と文化にふんだんに含まれているはずだから。

タビ夫
頑張り屋だけど
オッチョコチョイ。
憎めない愛されキャラ

ツマ子とタビ夫の妻旅劇場

～ 時間旅行で夢のひとつとき!?の巻 ～

ツマ子
いつも笑顔で旅が
大好き。天真爛漫な
おてんばキャラ



孀恋かるた帖



高山植物の女王ともよばれるコククサ。関東地方で自生しているのは本白根山だけです。毎年8月ごろ、紅紫色の可憐な花をつけますが、花の色と白みを帯びたみどりの葉が調和して、ほんとうに美しい植物です。採集は禁止されています。

孀恋昔話

牛を呑んだ池

「万座温泉」から歩いていける距離に、「牛池」という底が見えるほど透明度が高い小さな池があります。周囲は原始林がまじり茂り、池畔にはモウセンゴケ等の草花が密生。この池に、信州方面からの万座通いの牛飼いが牛をつないでおいだところ、なぜか牛がひきこまれて死んでしまい、以後、「牛池」と呼ばれるようになりまし。また、万座に人と荷物を運ぶ牛飼いが牛をここにたづなひておき、自分は宿に泊まっていたためにそう呼ぶようになったという説もあるようです。池を一周できる遊歩道が整備されていますので、美しく湖映する新緑や紅葉を楽しむながら散策してみたいかが。

地域おこし協力隊がゆく!

こころは埼玉県から移って孀恋村の地域おこし協力隊着任した鈴木です。孀恋に暮らし始めて1年。日々村に詳しくなる一方ですが、今回の制作を通じ、普段気な見ている景色に予想つかない歴史があったことに驚きました。約60年前まで私が働く観光案内所のある三原地区に電車が走っていた。駅周辺には映画館や飲み屋街、カフェなどでにぎわいを見せていた。荒涼とした景色が印象的な小串山にも集英や学校が存在し、そこに人の営みがあった。そして、同時にそんな村の資産と言えぬ魅力的な歴史や文化をもっと多くの人に知ってもらいたい。と強く思いました。村の歴史を盛り上げるのひとりとして自分に何ができるか。引き継ぎ考え行動し続けたいです。

孀恋人話

はじめまして。孀恋村役場観光商工課の加部貴裕です。妻旅ホーリータイムス歴史文化局が完成しました。愛妻家の聖地、孀恋村の歴史や文化をこころこほり下し、孀恋村の魅力を伝えたい。わたしは、約60年前、村の兄弟を方々に送るべく、一冊に仕上げてみました。わたしは、約60年前、村の兄弟を方々に送るべく、一冊に仕上げてみました。わたしは、約60年前、村の兄弟を方々に送るべく、一冊に仕上げてみました。



妻との時間をつくる旅 [ツマタビ ホーリータイムズ] TSUMATABI holy times vol.4

2022年7月22日(夫婦の日)発行
発行:(一社)孀恋村観光協会
特別協力&監修:孀恋村文化財調査委員 下谷通、ガイドの会 会長 土屋茂次
制作: ASTRAKHAN
協力: 孀恋村役場 観光商工課、日本愛妻家協会
【お問い合わせ】 孀恋村役場 観光商工課
群馬県吾妻郡孀恋村鎌原710-136 孀恋村観光案内所2階
tel: 0279-82-1293 (ご意見・ご感想もこちらまでお寄せください)
【観光案内】 孀恋村観光案内所
群馬県吾妻郡孀恋村鎌原710-136
tel: 0279-97-3721 受付時間: 8時30分~17時15分(年末年始休業)

妻との時間をつくる旅
THANKS MIPEI
愛妻家聖地
群馬県♥孀恋村
~孀恋村の観光スポット情報はコチラ~
妻旅 検索
www.tsumatabi.com

※本誌掲載の写真・文章を無断で複製・転載することを禁じます。